

「マンツーマンディフェンスの基準規則」および
「マンツーマンコミッショナーの設置および競技会(試合)における運用について」の改定内容

1.「マンツーマンディフェンスの基準規則」改定内容

・基準規則違反の罰則に以下の赤字・下線部分を追加。

※基準規則違反の罰則

ゲーム中はコミッショナーがマンツーマンディフェンスを監督・管理する。

コミッショナーがマンツーマンディフェンスの基準規則違反を察知した時は、審判に合図し(旗を振る等)、その直後のゲームクロックが止まった際に、審判は両チームのコーチを TO 席前に招き、コミッショナーから内容説明をした後に、審判が警告を与える。

(タイムアウトではないので、選手はコート上にて待機させる。コーチから選手に説明する時間が必要な場合、TO 席前にコート上の 5 人の選手を集め、速やかに説明を行う。)

その後の基準規則違反は、ベンチ(コーチ)のテクニカル・ファウルが適用される。

(注 1)各ピリオド(延長時限を含む)の終了間際に違反行為が生じ、コミッショナーの旗(赤色)が上がり、そのままゲームクロックが止まらずに各ピリオドが終了した場合、その警告および罰則はすべて有効とする。

(注 2)ゲーム終了間際(第 4 ピリオド・延長時限)残り 2 分を切ったからの違反行為(赤色の旗・警告)については、1 回目の警告でもテクニカル・ファウルの対象とする。ただし、ミニバスケットボールにおいては適用しない。

また、各運営団体の定める取り決めに従い、研修を重ねること。

2.「マンツーマンコミッショナーの設置および競技会(試合)における運用について」改定内容

・審判員の任務を追加し、[マンツーマンコミッショナーの役割]、[運用方法]、[違反行為判定にあたっての留意点]を[マンツーマンコミッショナーの任務]、[審判員の任務]、[大会主催者の任務]に整理して記載。